

令和7年度地方やデジタル分野における専修学校理系転換等推進事業

**医療現場の業務DXに資するAI人材育成に向けた学科転換事業
第2回合同会議**

令和8年2月19日

資料2

成果普及のためのプログラムに関して

第2回合同委員会での議題

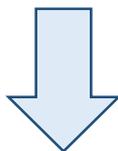
(前提)

本事業としての狙いは「文系学科を理系へ転換し、同様の学校を増やすこと」であり、導入校を増やすことを見据えたパッケージ化等の検討が必要。

本事業の成果を広げていく上で、重要な関係先となる「教育機関」と「医療機関」に対して、効果的な対応策は何か。



教育機関向け 生成AIに関する授業導入の支援策



医療機関向け 現場課題発見型の医療機関での実習モデル

教育機関向け 生成AIに関する授業導入の支援策

生成AI関連授業の 基礎教材の提供



■ 想定される課題 ?

- 生成AIに関わる基礎的な知識、リテラシーを身に着けるための授業を実施したことがなく、内容や評価の設計に不安がある
- 課題解決力を身に着ける実践型の授業の中に、生成AIの活用をどのように組み込めばよいか、わからない

■ 対策イメージ

- AI基礎授業のテンプレート
- 課題解決型授業の運営ガイド（仮想ケースなどの教材付き）
- 基礎的な評価ルーブリック

講師向け 生成AI活用ガイド



■ 想定される課題 ?

講師自身が…

- どのようなツールがあるのか、どのような活用ができるのか、知らない
- 日々の業務に追われ、実際に活用することができず、生成AIの効用を実感できていない

■ 対策イメージ

- 基礎的な生成AI、学習管理システム一覧（活用事例付き）
- 授業準備での生成AI活用ガイド

導入初期における 講師への支援



■ 想定される課題 ?

- はじめての導入で不安があり、アドバイスがほしい
- 周囲で生成AIを活用している講師がおらず、孤軍奮闘になることが予想される
- どのようにカリキュラムを組めばよいか、イメージできない

■ 対策イメージ

- 試行授業の共同実施
- 初回授業の設計相談
- 定期的なスーパーバイズ
- カリキュラム作成の相談

医療機関向け 現場課題発見型の医療機関での実習モデル

受入 ガイドライン



■ 想定される課題 ?

- AI人材の実習受入を検討するにあたって、受入側にどのようなことが期待されているのか、不安がある。
- 指導側にどのような負担が生じるのか、生成AIの活用に伴い情報セキュリティ上のリスクが生じるのか、わからない。

■ 対策イメージ

- ガイドラインの作成
 - 部門を跨いで共有できる
 - 育成上のポイントがわかる
 - 機関側の役割がわかる
 - 機関側のメリットがわかる

医療機関のニーズに則して選べる 実習パターンの作成



■ 想定される課題 ?

- 課題発見を主眼とした実習を受け入れるにあたって、実習生に求める“成果”がよくわからないし、業務改善の提案だけされても困る
- 改善したいと考えている業務のポイントを明確に持っているが、こちらの期待に沿った実習を組むこともできるのか
 - 例：請求業務まで兼務する医療事務の受付業務負担を軽減させたい
- 施設スタッフは気づいていない課題点を、学生目線で考えてほしいが、そのようなこともできるのか

■ 対策イメージ

- 医療機関のニーズに則して設計できるよう、2パターンを用意
 - 改善上の重点を医療機関側で用意する 「課題提示型」
 - 現場ニーズに沿って課題を新たに探索する 「課題探索型」
- 共通する部分の明確化
 - 例：最終日に現場の医療スタッフへプレゼンテーション



第2回合同委員会での意見

教育機関側の視点	<p>教材より「作り方」「更新できる場」が重要</p> <ul style="list-style-type: none">• 変化が早い分野であるため、教材・相談窓口などのツールだけでは機能しないのではないかと。• カリキュラム／授業の作り方・題材の探し方・各校の実践共有が重要で、教員同士が題材・授業例を学び合えるコミュニティ、または素材（授業案・ケース・評価観点など）が蓄積されたサイトが必要ではないかと。
医療機関側の視点	<p>継続関与できる「ゼミ型・蓄積型」の関係が有効では</p> <ul style="list-style-type: none">• 医療機関としては単発の導入よりも、「ゼミ・研究室」のように“代々の学生が引き継いで改善を継続する形”ができないかと。• 医療機関側のランニングコストの抑制・改善知見の蓄積・対外的な説明のしやすさ・採用につながる可能性などの期待が高まるのではないかと。

意見交換：次年度の方向性について

教育機関向け AI授業導入経験のシェアセミナー

医療機関向け 実習パッケージの作成

教育機関向け AI授業導入経験のシェアセミナー

■ 講師を取り巻く状況

- 生成AI自体の進歩・変化が著しく、知識がすぐに陳腐化する。
- 周囲で生成AIを授業で活用している講師がいないうえに、所属先からの支援もあまり受けられない。

■ 想定される講師にとっての課題

- (知識の問題) ・どんなツールがあるのか、どう活用できるのか、知らない。
- 生成AIの基礎知識、リテラシーが身についていない。
- (活用の問題) ・活用した経験がなく、講義形式・実戦形式ともに、授業設計のイメージがつかない。
- 経験のある講師や、生成AIに詳しい専門家に相談したいが、相談先がない。

■ 対策アイデア

生成AIと社会の急激な変化への対応・悩みをシェアする。

「AI授業導入経験のシェアセミナーの企画・実施」

- ① 生成AI・DXに関するレクチャー
- ② 教育経験をシェアする交流企画

教育機関向け AI授業導入経験のシェアセミナー

① 生成AI・DXに関するレクチャー

- 最新の状況に基づき、専門家による生成AIに関するレクチャーを実施。

⇒ 目標) 情報のアップデートへの感度をあげる

② 教育経験をシェアする交流企画 ※注1

- 実践経験のある講師・教育機関の事例紹介をベースに、知見・経験・悩みのシェアする「授業研究」の機会を提供。

⇒ 目標) 講師間で相談し合える関係性を作り、実践事例を蓄積できるようにする

※注2

コンテンツ 例

1. アプリ・学習管理システム等生成AIの現在
2. DX技術の現在
3. 医療現場での導入事例
4. 各技術の特性や向き不向き



話題提供 例

1. AIに関する授業事例の紹介
2. カリキュラムツリーの((再))構築プロセスの紹介
3. 講師自身の業務効率化の紹介
4. 基礎的な評価ルーブリック
5. その他（教育観など）



※注1) 令和8年度は麻生塾での実践経験の共有を軸に行う。

※注2) 生成AIを本格的に用いた授業経験者は他にいないため、小規模のテストケースとしてはじめる。

医療機関向け 実習パッケージの作成

■ 医療現場を取り巻く状況

- ・ 業務効率化について、経営的要請・社会的要請(働き方改革・人材不足・医療DX等)が高まっている。
- ・ 人材確保の面で、採用コストの削減やミスマッチの防止の機会として、実習受入への期待がある。

■ 医療現場にとっての課題

- (受入の問題) ・ AI人材の実習受入に何が期待されているのか、経験がないので不安がある。
 - ・ どのような負担や情報セキュリティ上のリスクが生じるのか、わからない。
- (成果の問題) ・ 実習生に求めるべき“成果”がよくわからず、業務改善の「提案」だけされても困る。
 - ・ 通常の実習と比べて、医療現場側にとってのメリットがわからない。

■ 対策アイデア

受入不安を解消し、医療現場のメリットを高める。

「医療現場でAI活用人材を育成する実習パッケージの作成」

- ① 「実習ケース」の可視化と分類
- ② 「受入に向けた事前チェックリスト」の作成

医療機関向け 実習パッケージの作成

① 「実習ケース」の可視化と分類

- モデル事業で行う実例をまとめる実習のイメージがつくようにする。加えて、医療機関の課題意識や期待にそって分類する※注1

⇒ 目標) 医療機関が実習を受け入れた際の具体的な様子をイメージできる

② 受入に向けた事前チェックリスト

- 受入を検討する上で、通常の実習との違いや医療機関側に求めたい項目を明示し、本実習の事前準備事項を提示する。

⇒ 目標) 相互の意識合わせができ、円滑に事前の調整・準備を進められるようにする

ケース分類 例 ※注2

- 医療機関の課題意識にそった分類
 - 改善事項を医療機関が用意する「課題提示型」
 - 課題を新たに探索する「課題探索型」
- 医療機関の期待にそった分類
 - 人材マッチングの機会としての活用
 - 業務改善の機会としての活用



記載 例

- 育成したい人材像・育成項目
- 必須の実習項目・重要な実習項目
- 医療機関側に求める役割
(部署別/担当別)
- 事前準備・打合せ事項



※注1) 課題解決型の実習の実証は令和8年度に開催する予定である。

※注2) 委員会での議論内容、ヒアリングで示された医療施設のニーズによる例示になる。